景気観測(LOBO)

≪2025.4~6月≫

令和7年度 第1四半期

日 立 商 工 会 議 所情 報 化 委 員 会

I.調査概要について

(1)調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7,10,1,4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

(2)調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製 造 業	25	22	88%
小 売 業	25	21	84%
建設業	25	20	80%
サービス業	25	20	80%
計	100	83	83%

(3)調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項、売上高の推移と変化要因
	採算・仕入/販売単価・従業員数・資金繰りの変化状況
調査方法	FAX・インターネット活用

(4)調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしょNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

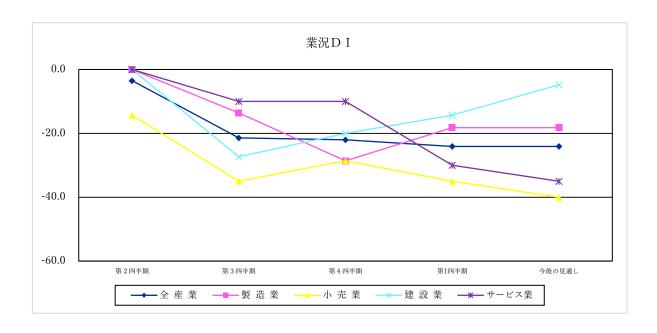
- ◎LOBOとは「CCI(Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称。
- ◎DI値(景気判断指数)について
- ・DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き)
- ・強気、弱気等景況感の相対的な広がりを意味する。
- ·DI=(増加·好転·不足等の回答割合)-(減少·悪化・過剰等の回答割合)

Ⅱ.業況判断について

- 全産業の業況は、▲24.1 と前回調査時(▲22.0)より 2.1 ポイントの悪化。今後の見通しは ▲24.1 と今回と同ポイント。
- 製造業では、▲18.2 と前回調査時(▲28.6)から 10.4 ポイントの改善。今後の見通しは、 ▲18.2 で今回と同ポイント。
- 小売業では、▲35.0 と前回調査時(▲28.6)より 6.4 ポイントの悪化。今後の見通しは▲40.0 と今回比 5.0 ポイントの悪化が見込まれる。
- 建設業では、▲14.3 と前回調査時(▲20.0)より 5.7 ポイントの改善。今後の見通しは▲4.8 と今回比 9.5 ポイントの改善が見込まれる。
- サービス業では、▲30.0 と前回調査時(▲10.0)より 20.0 ポイントの悪化。今後の見通しは▲35.0 と今回比 5.0 ポイントの悪化が見込まれる。

(1)業況DIの推移とキーワード

				令和6年度		令和	17年度
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	▲ 3.5	▲ 21.4	▲ 22.0	▲ 24.1	▲ 24.1
製	造	業	0.0	▲ 13.6	▲ 28.6	▲ 18.2	▲ 18.2
小	売	業	▲ 14.3	▲ 35.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 40.0
建	設	業	0.0	▲ 27.3	▲ 20.0	▲ 14.3	▲ 4.8
サー	-ビス	業	0.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 30.0	▲ 35.0



	キーワード					
第1位 第2位				第3位		
製	造	業	関税の影響	受注量減少	新規受注案件	
小	売	業	価格改定	原材料高騰	最低賃金	
建	建設業技術者不足		技術者不足	労働環境対応	公共工事増加	
サー	ービフ	ス業	材料·燃料高騰	消費者の節約志向	米相場	

《全国との比較》

	令和7年度	第1四半期	今後の見通し(7月~9月)		
	全国(6月)	日 立	全 国	日 立	
全 産 業	▲ 18.0	▲ 24.1	▲ 15.7	▲ 24.1	
製造業	▲ 18.6	▲ 18.2	▲ 17.2	▲ 18.2	
小 売 業	▲ 22.4	▲ 35.0	▲ 23.4	▲ 40.0	
建設業	▲ 15.2	▲ 14.3	▲ 10.8	▲ 4.8	
サービス業	▲ 8.5	▲ 30.0	▲ 8.1	▲ 35.0	

(2)売上高·採算・仕入単価・販売単価・従業員数・資金繰りの推移(DI値)

(売上高)

				令和6年度	令和	17年度	
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	4.6	▲ 2.4	▲ 4.9	▲ 25.3	▲ 12.1
製	造	業	4.6	9.1	▲ 14.3	▲ 13.6	▲ 18.2
小	売	業	▲ 14.3	▲ 5.0	9.5	▲ 25.0	▲ 35.0
建	設	業	4.8	▲ 13.6	▲ 10.0	▲ 47.6	14.3
サー	ービン	ス業	21.7	0.0	▲ 5.0	▲ 15.0	▲ 10.0

(採算)

				令和6年度	令和7年度		
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	▲ 9.2	▲ 23.8	▲ 28.1	▲ 24.1	▲ 28.9
製	造	業	4.6	▲ 9.1	▲ 23.8	▲ 22.7	▲ 36.4
小	売	業	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 42.9	▲ 30.0	▲ 35.0
建	設	業	▲ 4.8	▲ 22.7	▲ 25.0	▲ 28.6	▲ 9.5
サー	ービフ	ス業	▲ 13.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 35.0

(仕入単価)

				令和6年度	令和7年度		
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	▲ 69.0	▲ 73.8	▲ 76.8	▲ 67.5	▲ 50.6
製	造	業	▲ 59.1	▲ 59.1	▲ 61.9	▲ 59.1	▲ 45.5
小	売	業	▲ 81.0	▲ 80.0	▲ 85.7	▲ 75.0	▲ 50.0
建	設	業	▲ 66.7	▲ 77.3	▲ 80.0	▲ 71.4	▲ 47.6
サー	ービス	く業	▲ 69.6	▲ 80.0	▲ 80.0	▲ 65.0	▲ 60.0

(販売単価)

				令和6年度	令和	17年度	
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	42.5	32.1	42.7	36.1	25.3
製	造	業	36.4	27.3	28.6	40.9	22.7
小	売	業	66.7	35.0	66.7	50.0	30.0
建	設	業	38.1	36.4	45.0	33.3	14.3
サー	ービン	ス業	30.4	30.0	30.0	20.0	25.0

(従業員数)

				令和6年度	令 和	17年度	
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	26.4	23.8	18.3	25.3	25.3
製	造	業	22.7	13.6	4.8	4.6	0.0
小	売	業	14.3	15.0	28.6	20.0	20.0
建	設	業	33.3	45.5	10.0	33.3	47.6
サー	ービフ	ス業	34.8	20.0	30.0	27.3	35.0

(資金繰り)

				令和6年度	令和	17年度	
			第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し
							(7~9月)
全	産	業	▲ 8.1	▲ 13.1	▲ 15.9	▲ 18.1	▲ 16.9
製	造	業	▲ 4.6	▲ 4.6	▲ 14.3	▲ 13.6	▲ 22.7
小	売	業	▲ 19.0	▲ 20.0	▲ 23.8	▲ 40.0	▲ 35.0
建	設	業	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 10.0	▲ 4.8	▲ 4.8
サー	ービン	ス業	▲ 4.4	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 5.0

(3)業種別概況

業種	概 況
	業況感・売上・採算、若干ではあるが回復している。関税の影響が今後どのように
	影響してくるか見通せない様子が伺える。新規受注案件が出てきた報告も見られ
	た。
	個別では
	「今後はトランプ関税の影響が必至と思われる。政治的な解決が難しい状況下で不
	安が募っている。」(組合)
	「価格転嫁のタイムラグ、工事物件・需要の低迷。働き方改革、物流の停滞による工
	事物件の遅延と停滞⇒国内需要の減少。」(建築資材製造業)
	「変圧器需要が国内外で拡大する見込みとなっており、顧客の今後の動向と、国分
製 造 業	事業所から日立産機に継承する変圧器事業の動出しと受注増加に期待したい。」
	(電気機械器具製造業)
	「トランプ関税、日産自動車の国内工場閉鎖の影響。」(輸送用機械器具製造業)
	「地元取引先からの受注量減少。物価上昇分の価格転嫁が進まない。」(輸送用機械
	器具製造業)
	「ゼネコン大手建設業者から設備品の受注により売上増加。」(金属加工業)
	「社員(エンジニア)増に伴う売上アップ。新卒社員の売上げ戦力化。」(情報サービス
	業)
	「組合よりローカルゼブラや CSR・DX への取組により経営改善を進めてと事例を
	含めて広報があった。」(印刷業)

「日立製作所の白物家電事業売却により、今後の影響が懸念される。」(印刷業) などの報告があった。 業況感・売上が共に悪化しているが、採算は多少回復。原材料等の上昇が止まら ず、商品への価格転嫁が追い付かない。また最低賃金の引上げに対して不安である との報告があった。 個別では 「原材料費高騰が続くが、その都度値上げとはいかずタイミングをみての値上げ、ま た値上がり前に材料を多めに仕入れたりもするため、その都度の資金繰りの問題な どさまざま出る。お菓子は趣向品と思われているため、まずは生活必需品にお金を 回すので後回しになる。今年の暑さや雨不足の影響で秋からの作物の出来具合が 心配。お米など生活必需品の価格が落ち着くまではまだ財布の紐がかたいと思われ る。」(菓子製造小売業) 「昨年並みの最低賃金アップが見込まれることによる 10 月以降の人件費増加。商 圏内への止まらないドラックストアの新規出店が懸念される。」(食品スーパー) 小 売 業 「今後の暫定税率に関する問題は大きな起点と考える。仮に暫定税率の撤廃が起き れば、今後のガソリン需要の貢献に期待できる。その反面、外出の頻度低下が習慣 となってきており、ガソリン単価への関心は薄れていくのではという気もし始めてい る。」(燃料小売業) 「落ち着きつつはあるが、車業界の状況にも左右されるため安心はできない。」(カー 用品小売業) 「客単価が上がった為売上増加。」(コンビニエンスストア) 「物価高騰により売上増加。夏季長期休業又は休校により売上下落。」(事務機器販 売業) 「日立製作所の白物家電製造撤退の影響が気になる。」(食肉販売業) 「高単価商品販売による売上増加。新車納期の問題と中古車不足。」(自動車販売 業) などの報告があった。 業況感回復も、売上・採算は悪化。公共・民間工事回復の報告が見られるが、人 材・技術者不足の報告が多数あった。 個別では、 「公共工事及び民間工事とも発注がピークを迎える。」(総合建設業) 「時間外労働の上限規制により、人手が足りず工事の進行が遅れている。」(一般住 宅建築業) 「人口減少による建築需要の低下が懸念される。」(一般住宅建築業) 建 設 業 「外国人労働者の受入れ窓口になるところがない。」(土木工事業) 「市場動向からの発注量減少に伴い、従業員の仕事に対するモチベーションの低下 が深刻である。生産性の低下、職場雰囲気悪化と負の連鎖に直結している。((土木 工事業) 「夏場の熱中症対策を行いながらいかに現場を動かしていくか、工期までに完成さ せるか、屋外での作業のため心配事である。今後の台風の影響も気になる。」(設備 工事業)

「ハウスメーカ物件の減少、人員不足。人員不足による商談、受注の断念。人材確 保、働き方改革への対応が必要。」(設備工事業) 「法律改正や労働環境法改正に対しての対処法。」(一般住宅建築業) 「暑さ対策として遮熱塗装の要望が増加。公共工事の増加により売上増加。」(塗装 業) などの報告があった。 業況感・売上は悪化しているが、採算は回復。来店頻度の長期化や、原材料等の 価格上昇により、厳しい状況が続いている報告があった。 個別では、 「日立依存度の高いトラック下請け業者、経営苦戦。」(物流業) 「2024年問題による労働力確保に向けた採用活動の展開。為替や米国関税措置 等による物価の高騰が懸念されるため、経費増加への対応。利便性の高い公共交 サービス業 通利用環境の実現に向けて、DX化を推進。グリーントランスフォーメーションEVバ スの導入促進。自動運転実証実験を関係機関と推進し、新たな移動手段を創出す る。金融機関の貸出金利上昇による利払やリース料率の上昇対応。」(物流業) 「トランプ関税の動向。米の相場。夜間の来店客減少。高いメニューやお酒の注文が 少なく景気が悪いのかと感じている。」(飲食業) 「物価高の影響か来店のサイクルが長くなっている。」(理容業) などの報告があった。